

こころば

24号

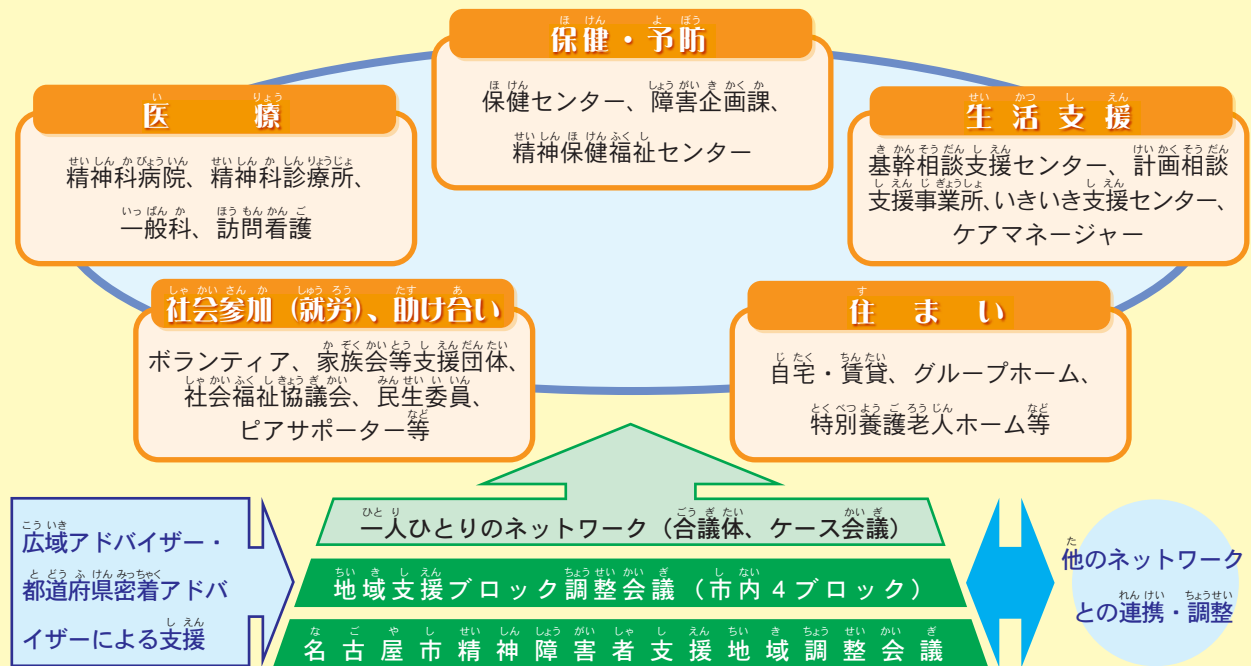
NAGOYA

こんごう ないよう
今号の内容

- ♥ 「せいしんしょうがい精神障害にも対応したたいおう地域包括ちいきほうかつケアシステム
の構築」に向けた取り組みについて…… 2～3
- ♥ いぞんしょう依存症事業について…………… 4～5
- ♥ ひきこもりでお悩みのご家族向け
パンフレットを作成しました…………… 6
- ♥ ひきこもり講演会・思春期研修について… 7
- ★ リレーでつなごう！地域の支援機関＜第14回＞
しゅうろうけいぞくしえん「就労継続支援B型 ワークスペース みるみる」… 8

「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」 に向けた取り組みについて

本市では、平成30年4月から「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」に向けた取り組みを開始しております。精神障害者が地域の一員として、安心して自分らしい暮らしをすることができるよう、医療、生活支援、住まい、保健・予防、社会参加（就労）・地域の助け合いが包括的に確保されたシステムの構築を目指しており、ひとり一人のネットワーク・市内を4区毎に分けたブロックのネットワーク・市域全体のネットワークの3層構造において協議の場を設置し、関係者の皆様と共に構築の推進に取り組んでいます。



※ 図「精神障害にも対応した地域包括ケアシステムの構築」イメージ

精神障害者地域移行・地域定着支援ピアサポーター 養成研修を開催いたしました

地域包括ケアシステム構築の一つとして「精神障害者ピアサポート活用事業」があります。これは、精神障害者の視点を重視した支援や地域の理解を促進するために、地域で生活する障害のある当事者が体験談を話すこと等で、①精神科病院の長期入院者および長期入院が見込まれる者に対する地域生活への動機づけ支援、②地域で地域移行・地域定着支援に関する普及啓発活動を行う事業です。

そこで、ピアサポーターとその支援者の役割についての理解と体験談を話すスキルを学ぶことを目的として、精神障害者地域移行・地域定着支援ピアサポーター養成研修を以下の通り開催いたしました。

日 時

平成30年10月17日（水）午後1時半～5時

内 容

「精神障害者ピアサポート活用事業・精神障害者ピアサポーター登録について」

「ピアサポート活動の意義・活動するうえでの注意点」

「ピアサポート活動の実際」「体験談を語るためのワーク」

対 象 者

市内在住または市内の障害福祉サービス事業所を利用する当事者とその支援者

けんしゅう お 研修を終えて…

ピアサポーターの登録や円滑な活動に繋がりやすいように当事者のみならず、その支援者にもペアとなり参加を促した結果、当事者8名、支援者18名、合計26名の参加がありました。

ワークシェアリングの時間が足りなかったという意見もあり、障害のある人の体験談を知ることが有意義な時間であることを実感した研修となりました。当事者に作成いただいたワークシートの中には、「役に立てるならやってみたい」、「自分にしかできないことがあるのは自信になる」など積極的な言葉がいくつもみられ、実際にピアサポーター登録に結びついた方もいます。

また、開催に際し、名古屋市の地域包括ケアシステムを構築するにあたって担当いただいている広域アドバイザーや保健センター職員、障害企画課職員、障害者基幹相談支援センター（以下基幹センター）職員にご協力・ご助言をいただいたことで、実践につながるようなワークシート方式を取り入れることができ、企画を多機関で考えることの良さ・重要性も実感できました。

かどう きょうみ とうじしゃ かた かどう いらい かた 活動に興味のある当事者の方・活動を依頼したい方へ

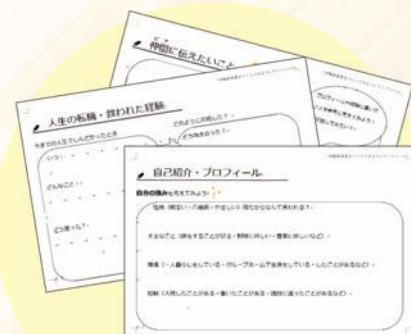
今回紹介した精神障害者ピアサポート活用事業は各区基幹センターへ委託しております。

ピアサポーターとして活動する場合、各区基幹センターへの登録が必要となります。登録申請は、養成研修を受講していない方でも可能です。活動の場は、家族会や当事者会などの自助グループ、病院、障害福祉サービス事業所などをはじめとする支援機関です。活動に興味のある当事者の方・活動を依頼したい方は、まずは、居住地もしくは活動地の基幹センターへお尋ねください。

さらに、平成31年2月15日（金）には、研修修了者へ実際に自分の体験談を発表する練習の場を設けるとともに、地域の精神医療保健福祉関係者へのピアサポート活用事業の周知の場を設けるため、「ピアサポーターによる体験談発表会」を開催しました。

実際の活動依頼につなげられるお手伝いをするだけでもピアサポート活用事業を支えていきたいと考えています。

- ※ ピアは英語で「peer」＝「仲間」を意味しています。
同じ症状や悩みをもち、同じような立場にある仲間が、助け合うことを「ピアサポート」と言い、その活動の担い手を「ピアサポーター」と言います。



「体験談を語るためのワーク」
で使用したワークシート



医療法人福智会
福智クリニック デイケアぶなの森
宇治野利太さん作品 (1)



医療法人福智会
福智クリニック デイケアぶなの森
宇治野利太さん作品 (2)



医療法人福智会
福智クリニック デイケアぶなの森
宇治野利太さん作品 (3)

依存症事業・講演会について

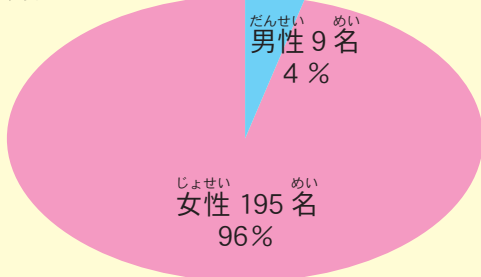
● 依存症相談事業について ●

平成30年7月より、名古屋市精神保健福祉センターにて「依存症相談窓口専用電話」を開設し電話および、来所相談を行っています。対象者は、名古屋市内在住、在勤、在学のアルコール・薬物・ギャンブル等の依存で悩んでいる方、またはそのご家族となります。平成30年7月から12月までの間に、「依存症相談窓口専用電話」にご相談があった実績は、以下の通りです。

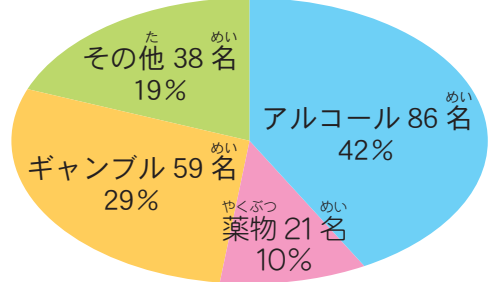
■ 電話相談 (計 204 名)

電話相談者の男女比

男性 9 名
女性 195 名
合計 204 名



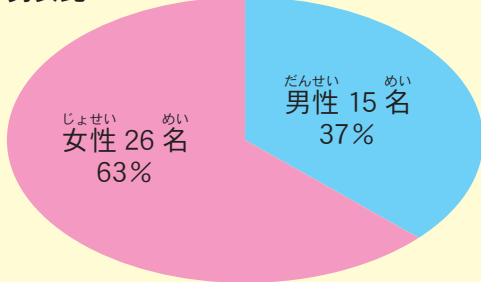
電話相談内容種別



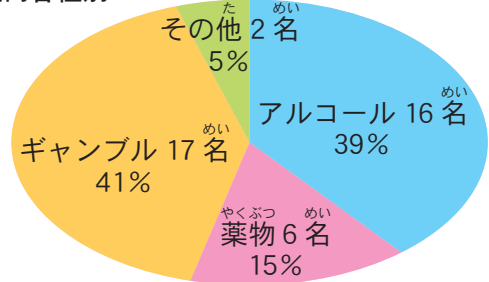
■ 来所相談 (計 41 名)

来所相談者の男女比

男性 15 名
女性 26 名
合計 41 名



来所相談内容種別



● 依存症講演会について ●

平成30年度 名古屋市依存症講演会 「ギャンブル依存症を考える」を開催しました

名古屋市精神保健福祉センターでは、市民に広く依存症の問題に関心を持っていただくことを目的とした「名古屋市依存症講演会」を平成30年度より開催しております。

今年度は10月13日(土)、天白文化小劇場にて、「ギャンブル依存症を考える」と題し、元大相撲力士の貴闘力さんをお招きしてお話いただきました。依存症に悩むご本人やそのご家族、支援関係者など150名の方が参加されました。貴闘力さんからは「数年ギャンブルを止めていても、またふとしたきっかけで始めてしまう」「依存症は病気なので、なかなか止められない」など、ギャンブル依存症の怖さや止めることの難しさ等を自身の体験を交えながらお話いただきました。来場者からは、「ギャンブル依存症の生の声が聞けて良かった」「このような講演会をまた開催してほしい」など様々な声が寄せられました。今回の講演会を通して、市民の方々が依存症の問題に関心を寄せ、理解を深めるきっかけになればと考えています。



●アディクション・セッション●

平成30年11月16日(金)午後、名東文化小劇場において、アルコールや薬物・ギャンブル・食行動など様々な依存症の自助グループや家族グループ、各支援機関等からの活動内容の紹介や、それぞれの立場から経験や思いを伝えて頂く目的で開催しました。この事業は、6年前から実施していますが、メッセージを届けて下さる団体は、当初14団体から19団体に増え、平日にも関わらず125名の方が聴きに來られました。

まとめ講演では、臨床心理士の西野敏夫氏により「現在、依存症の治療薬はないが、自助グループに繋がることで、回復することは可能である。当事者同士が集まり、安心して話せる場や仲間を持つことが、止め続けることを可能にし、回復に有効である。」というお話がありました。

終了後のアンケートでは「当事者の方々のお話がとても身に迫ってきた。当事者にしかできない発信力ってあるんだなと思った。」「名古屋ダルク、OA、ピアサポートリボンの会、西山クリニック通院中の方の体験談など、正直な話が心に入ってきました。」「厳罰化、摘発の強化だけでは解決できない問題だ。医療・支援につながる事が大事だと思った。」「どのような依存も治療や対応に共通点が多いと思った。」「力になりました。ありがとうございました。」「などの感想をいただきました。

●家族のつどい●

アルコール・薬物・ギャンブル依存症本人への対応のポイントを学んだり、同じ悩みを持つ家族同士の交流を図る場として、今年度6回の予定で開催中です。当センターの依存症相談に來所されたご家族にご案内し、希望する方に参加していただいています。毎月7名様のご家族が「CRAFT(クラフト)」という手法を用いて、依存症本人への対応を学んでいます。対応法を変えることで本人が治療に結びつく確率が高まり、たとえ治療につながなくても、問題行動を減らすことができます。また、ご家族自身のメンタルケアに効果があると言われています。誰にも言えない悩み、苦勞、怒り、悲しみなどを、このつどいの中で話すことができます。参加者からは「思い悩んでいた事を話すことができ、少し楽になった」「同じ思いをしている人がいると分かり、ほっとして気持ちが和らいだ」という声が寄せられています。

●依存症家族教室●

依存症の正しい知識や対応方法などを学び、身近な方の治療や回復について一緒に考えるため夏と冬の時期にアルコール・薬物に関する教室を開催しました。依存症を専門に治療している西山クリニックのスタッフから依存症の知識やメカニズム、治療方法などわかりやすくご講義いただきました。また、依存症当事者やそのご家族からの体験談を通して、依存症となったきっかけや心情を理解し、同じ問題で悩むご家族のお話を共有することでより具体的に依存症の問題について理解いただくことができました。最後に、多くの依存症当事者と関わってきた精神保健福祉士の方から依存症本人に対して適切な関わり方や効果的な対応方法を学んでいただきました。来年度も同様の教室を開催する予定ですので、依存症の問題について興味・関心がある方はぜひご参加ください。



医療法人福智会
福智クリニック
デイケアぶなの森
デイケアぶなの森皆様の作品

医療法人福智会
福智クリニック
デイケアぶなの森
北村英樹さん作品



開花宣言



医療法人福智会
福智クリニック
デイケアぶなの森
牧辰徳さん作品

「ひきこもりパンフレット」について

「ひきこもりでお悩みのご家族の方へ」を作成しました

名古屋市ひきこもり地域支援センターでは、ひきこもりでお悩みのご家族の方に向けて、基本的な対応方針やコミュニケーションのポイント、相談窓口の情報提供等を目的としたパンフレット「ひきこもりでお悩みの方へ～家族にできること～」を発行しています。

今年度は、ひきこもりからの回復過程や支援機関に誘うタイミングなどの情報を追加し、「ひきこもりでお悩みのご家族の方へ」を作成しました。ご家族のお気持ちが少しでも楽になり、ひきこもりからの回復の一助となれば幸いです。

このパンフレットは、当センターや各保健センターにて配布しているほか、市公式ウェブサイトからダウンロードすることもできます。



医療法人福智会
福智クリニック
デイケアぶなの森
平野俊之さん作品 (1)

医療法人福智会
福智クリニック
デイケアぶなの森
平野俊之さん作品 (2)



医療法人福智会
福智クリニック
デイケアぶなの森
平野俊之さん作品 (3)



ひきこもり講演会、思春期研修について

●ひきこもり講演会について●

ひきこもり講演会

「家族と本人がともに元気になるひきこもり支援」を開催しました。

7月14日（土）、名古屋市教育館にて、平成30年度「名古屋市ひきこもり講演会」を開催しました。ひきこもりのご本人やご家族、地域の方、支援関係者など91名の方にご参加いただきました。

今年は「家族と本人がともに元気になるひきこもり支援」と題し、宮崎大学の境泉洋先生をお招きして、ご講演をいただきました。先生からは「家族が本人とのポジティブなコミュニケーションを身につける大切さ」や「本人の望ましい行動を引き出す工夫」などのお話をいただきました。

来場者からは「家族が暗くなっていることが本人に悪影響を及ぼしていることがとてもわかりやすく納得でき希望がもてました。」とか「家族支援の重要性について、とても分かりやすく、支援者として今後の仕事に役立てていきたいと思いました。」など様々な声が寄せられました。

●思春期研修について●

平成30年度 思春期精神保健研修（Ⅰ期・Ⅱ期）を開催しました。

精神保健福祉センターでは、保健センター職員や高等学校教諭を対象に、思春期精神保健研修を開催しています。

平成30年度Ⅰ期は8月3日（金）午後に「スマホ依存の自律的解決にむけて～ハンドブック作りをとおして～」と題して、金城学院中学高等学校 スクールソーシャルワーカー 宮之原 弘先生に講義をしていただきました。36名の方にご参加いただき、生徒自身がハンドブック作りを通してスマホとの付き合い方を考えたり、また完成したハンドブックを通して生徒自身が依存に気づき解決にむけて行動を起こしたり、保護者や学校関係者もこのハンドブックを共通の媒体として生徒と向き合ってこられた経験等を講話いただきました。

Ⅱ期は8月28日（火）午後に「個別事例で見る性的少数者の生徒との向き合い方」と題して、一般社団法人虹望会 金丸 ユウジさんに講義をしていただきました。24名の方に参加いただき、性的少数者の児童生徒の抱えるさまざまな問題（差別や偏見、精神疾患、自殺等）や本人にとっての苦痛やサポート方法、家族への対応・支援など多岐にわたる講義をしていただきました。

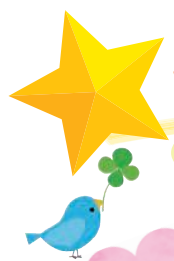
平成31年度も、関係機関の方々の知識・技術向上に役立つような研修を企画していきたいと思っております。

医療法人福智会
福智クリニック
デイケアぶなの森
みずさきのがやす
水崎信保さん作品



医療法人福智会
福智クリニック
デイケアぶなの森
しらishiはるみ
白石晴美さん作品





ち い き し えん き かん
リレーでつなごう！地域の支援機関 第14回



ワークフリースみるみる

しゅうろうけいぞく し えん がた し ぎょうしよ
(就労継続支援 B 型事業所)

みるみるは、まだ開所2年目の事業所ですが、「仲間と楽しく働く」をモットーに、
利用されている皆さんが、日々学び成長していくことをめざして活動しています。



みんなでいっしょに 仕事もお楽しみも

いっしょ はたら りようしや
一緒に働く利用者（ワーカー）、そして彼らに寄り添う職員（エイダー）が
いっしょになって、仕事に取り組んでいます。

げつ きんよう び
月～金曜日、9:30～16:30 までの間で、午前・午後それぞれ木工・縫製製品作り、乾燥食材の袋詰め、
ないしよく し ごと ちい き こうれい かた てつだ し ごと さ ぎょうおこな
内職仕事、地域の高齢の方のお手伝い仕事などの作業を行っています。時々区役所や社会福祉協議会の関係
のイベントでの出店もあります。

また、作業以外にも、月に2度ずつ、ヨガ体操とおんがく じ かん
ンチャイムの演奏もしていますので、ぜひ聴きにきてください。



じ かい
次回は、るっくコーポレーションさんです。

な ご や し せいしん ほけんふくし つうしん
名古屋市精神保健福祉センター通信 ころばNAGOYA 24号

はつ こう び
発行日 2019年3月 発行 名古屋市 発行部数 2,900部

へんしゅうたんとう
編集担当 名古屋市精神保健福祉センター ころば
〒453-0024 名古屋市中村区名楽町4丁目7番地の18

tel.052-483-2095 fax.052-483-2029

<http://www.city.nagoya.jp/kurashi/category/22-5-3-0-0-0-0-0-0-0.html>